

# 人の死（法医学）

オーガナイザー

法医学講座 教授 近藤 稔 和

## 教 員 名

法医学講座

教授 近藤 稔 和

准教授 石田 裕 子

講師 石上 安希子

講師 野坂 みずほ

非常勤講師 池松 和 哉

非常勤講師 木下 博 之

非常勤講師 宮石 智

非常勤講師 林 敬 人

## I 一般学習目標

集団の中で発生した異状死亡の原因を解析理解することができるようになるために、社会における医と法の多数の接点を理解し、すべての医療行為の責務を充分果たし得る態度を習得する。

## II 個別学習目標

1. 死の概念について説明することができる。
2. 死体現象を列挙し、それから死後経過時間を推測することができる。
3. 損傷の性状を識別し、損傷を診断・分類することができる。
4. 損傷と死因との因果関係を説明することができる。
5. 突然死に陥る疾患を列記することができる。
6. 窒息を分類し、それらの特徴点を指摘することができる。
7. 性的犯罪の法律的な意義について説明できる。
8. 胎児からヒトへの法律的移行時期について述べることができる。
9. 嬰兒、乳幼児の異状死の社会的問題について述べることができる。
10. 焼死の概念について説明することができる。
11. 各種薬毒物の中毒発現機構について説明できる。
12. アルコールの代謝について説明することができる。
13. 個人識別の手段について説明できる。
14. 赤血球抗原型各血液型の法医学および臨床医学における意義について説明できる。
15. 赤血球抗原型各血液型の抗原構造および生合成について述べることができる。
16. 赤血球凝集法による血液型検査および交差適合試験について説明できる。
17. HLAの多型について検査法を含めて説明できる。
18. DNA多型の法医学的意義について説明できる。

## III 教育内容

1. 講義項目と担当者

V期

1. 死と死後経過時間
2. 損傷と死因
3. 窒息
4. 中毒
5. 交通事故損傷

#### VI期

6. 嬰兒の異状死
7. 異常環境による死
8. 内因性急死
9. 性に関する異常
10. 集団の中における個人識別

#### IV 学習および教育方法

講義：スライド示説ならびに可能な限り、多くの司法解剖を見学させることにより、総合的把握理解に努める。また、講義の中に血液型判定等のdemonstrationを取り入れる。

#### V 評価の方法

2/3以上の時間数講義に出席した者のみを評価の対象とする。

試験、レポートなど評価事項のいずれも全学的な合格基準に基づいた点数以上を獲得した者を合格とする。

#### VI 推薦する参考書

- 永野耐造、若杉長英編：現代の法医学（金原出版）
- 松倉豊治編：法医学（永井書店）
- 錫谷 徹著：法医診断学（南江堂）
- 若杉長英著：医学要点双書11 法医学（金芳堂）
- 高取健彦編：エッセンシャル法医学（医歯薬出版）
- Saukko/Knight：Knight's Forensic Pathology（Arnold）

## 講義日程表

No.	月日	曜日	時限	項 目	担 当 科	担当
1	2月15日	火	1～3	総論	法医学	近藤
2	3月1日	火	1～3	各論	法医学	近藤
3	3月8日	火	1～3	死体現象	法医学	近藤
4	4月12日	火	1～3	損傷全般	法医学	近藤
5	4月19日	火	1～3	窒息	法医学	近藤
6	4月26日	火	1～3	溺死	法医学	近藤
7	5月10日	火	1～3	中毒・アルコール	法医学	近藤
8	5月31日	火	1～3	異常環境	法医学	近藤
9	6月7日	火	1～3	嬰兒殺	法医学	近藤
10	6月14日	火	1～3	児童虐待	法医学	近藤
11	6月21日	火	1～3	内因性急死	法医学	近藤
12	9月20日	火	1～3	突然死	法医学	近藤
13	10月4日	火	1～3	個人識別・血液型	法医学	近藤
14	10月11日	火	1～3	性の法医学・医療関連死	法医学	近藤